

登録コード:MH438300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	地域作業療法学実習【20M以降】 Fieldwork: Community based Occupational Therapy			
担当教員	務臺 均 上村 智子・佐賀里 昭・岩波 潤・田中 佐千恵			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻 / 3年生 前期(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	3 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		地域の施設において、作業療法学生として業務の一部を体験することで、地域作業療法の仕事・役割を理解し、チームの一員として働き協調性を身につける。職業人としての基本的な作業習慣を身につける。対象者の尊厳を護り医療保健の専門職者として責任のある態度行動がとれるようになる。指導者の業務の補助、集団療法、対象者の送迎などを体験する。対象者の基本情報の収集や作業療法の基本的な評価・練習を経験する。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		作業療法士に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技術（主に治療に関連するもの）を習得し、臨床現場において活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身につけている。		社会で派生する多様な課題に対して、多領域に関わる作業療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、それらを支援するための制度や知識の獲得に向けて生涯をかけて取り組む力が身につけている。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		地域高齢者の臨床現場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに臨床実習指導者等の関係者に伝えることができる。	
対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。		地域高齢者の臨床現場における対象者やその家族、実習指導者、理学療法士、言語聴覚士、看護師などのチーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、作業療法士を目指す学生として可能な範囲で協働的に役割を担うことができる。		
プロフェッショナリズム 保健・医療専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		作業療法士として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		
授業で学べる「テーマ」	地域運営、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	地域作業療法学実習は、主に高齢者・精神症患者を対象とした地域の通所リハビリテーション（デイケア）施設、訪問リハビリテーション（訪問リハ）施設で、3週間の実習を行う。『臨床参加型実習』の実習形態により、実習生は職場のチームの一員として作業療法業務に参加する。実習生は指導者の指導・監督のもとに多様な作業療法業務を経験し、臨床的な実践能力を養う。 本授業は、1年次に学んだ「生理学」「解剖学」「作業療法学概論」、2年次に学んだ「内科学」「日常生活支援論」「高齢者リハビリテーション概論」「整形外科学」「臨床神経学」「身体障害評価学実習」「精神障害評価学実習」「老年期作業療法学」「精神障害治療学」「作業療法評価学実習」および3年次前期に学んだ「老年期作業療法学」「精神障害治療学」「作業療法治療学実習」の知識・技術が前提となります。そして、本授業の内容は、3年次後期に学ぶ「臨床技能演習」および4年次の「臨床実習」における重要な基礎知識・技術となります。 本授業は、担当教員の医療機関・施設における作業療法士としての実務経験を活かして指導を行います。			
授業計画	実習担当教員が実習計画を立案する。各学生の実習する施設は、5月初旬のまでに決定する。ただし、実習施設側の都合などで変更になる場合もある。 7月中には地域作業療法学実習マニュアルを用いて、実習オリエンテーションを行い詳細を説明する。 実施期間は8月31日（月）～9月18日（金）とする。1施設1～2人で実習する。 9月21日～25日の間のどこか半日を使って実習セミナーを行う（8月中には実施日を決める）。終了後、授業アンケートを実施する。			
授業の進め方	実習指導者の指導のもとに、上記の行動目標、チェックリスト、実習報告書の項目を具体化するよう積極的に実習に取り組む。実習生はチームの一員として臨床業務に関わり、チェックリストを活用しながらさまざまな臨床業務を経験する。レクリエーションの企画・運営を行う。デイリーレポートは指定の書式を使用する。分量は1日につき1～2枚以内にまとめ、できる限りその日のうちに実習指導者に提出し指導を受ける。ただし、実習生は実習の終了後に学内にてセミナーを行うので、発表用のパワーポイントを準備する（ファイルのひな形は後日配布する）。発表内容は、実習を行った施設紹介、学生が実習を通じて身に付いたこと、勉強になったことをパワーポイントにまとめて30分程度で発表する。 セミナー終了後授業アンケートを実施する。			

テキスト，教材，参考書	臨床実習マニュアル，デイリーノート，チェックリスト，目標設定シート，進捗状況確認シートを配布する． これまでのすべての授業で使用した，教科書，資料等を参考にする．
成績評価の方法	実習科目の性質上，原則として全日程出席する必要がある． 欠席により学修時間が不足し，実習目標の達成が確認できない場合は，成績評価の対象としない．なお，やむを得ない事情による欠席については追加実習を行うことがあるが，調整困難な場合は，当該期での単位修得はできない． 達成目標，成績および単位認定は，地域作業療法学実習報告書，チェックリスト，自己学習ファイル，学内で行うセミナーを総合評価し，担当教員が判定する．
成績評価の基準	成績および単位認定は，地域作業療法学実習報告書（40％），チェックリスト（10％），自己学習ファイル（20％），学内で行うセミナー（30％）を総合評価し，担当教員が判定する． 単位取得の前提条件として，無断欠席・遅刻がなく，かつ実習の全行程に出席し必要な経験を蓄積していることである． そのうえで， 90-100点：秀，80-89点：優，70-79点：良，60-69点：可．欠席，遅刻をせず，提出物も期限までに提出し，デイケア・訪問リハ業務が「見学」から「模倣」レベルとなり，学内セミナーの内容が十分であれば「水準にある(可)」，欠席，遅刻をせず，提出物も期限までに提出し，デイケア・訪問リハ業務が「模倣」レベルとなり，学内セミナーの内容が十分であれば「やや上にある(良)」，欠席，遅刻をせず，提出物も期限までに提出し，デイケア・訪問リハ業務が「模倣」から「実施」レベルとなり，学内セミナーの内容が良好であれば「かなり上にある(優)」，欠席，遅刻をせず，提出物も期限までに提出し，デイケア・訪問リハ業務の多くが「実施」のレベルに達しており，セミナーの発表内容が卓越していれば「卓越している(秀)」．
事前事後学習の内容	事前学習 すべての授業で学習した様々な評価方法，治療方法，レクリエーションは復習してできるようにしておく． 実習開始後は，毎日次の日に実施すること予習して実習に臨む． 事後学習 実習開始後は，毎日その日に獲得できたこと，指導者から教えてもらったことなどを自己学習ファイルにまとめる．関連する内容について，教科書や文献等を調べて学習する． 実習終了後に学内でセミナーを行う．実習を行った施設紹介，学生が実習を通じて身に付いたこと，勉強になったことをパワーポイントにまとめて30分から1時間程度で発表する． 本授業の単位修得には138時間の学習が必要です． 授業時間135時間（1日8時間×15日＝120時間，1日最低1時間の自己学習時間×15日＝15時間）＋セミナー3時間＝合計138時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	交通費がかかるので経済面での事前準備をしておく．実習中の報告・連絡・相談は電話やE-mailなどで担任あるいは領域担当教員が随時対応する．チームとして動けるよう積極的に取り組んで欲しい． 相談への対応：授業担当：務台均 hitmutai@shinshu-u.ac.jp